



脚本きやくほんで動きを説明する

脚本は、映画や演劇の内容を文字で書き表したものです。

下の例のように、脚本では、物語をせりふと書きに
分けて書くことで、音声や映像、舞台でどのように音声
化されたり視覚化されたりするかを表します。演者はど
のように演じればよいか、音楽や舞台セットなどは何を
用意すればよいかなど、演じる側が表現するときは何
が必要かがわかります。また、視聴者しちちやうや観客は、どこ
で何が起きているのか、誰が何をしているのが理解で
きるようになります。

文字で書かれた脚本には、実際に人が演じるためにど
のような工夫がされているか、考えてみましょう。

■脚本の要素

ト書き。人物の感情や動き、音楽や効果音、道具や背景などの指示を文章で書き入れたもの。() に入れて示すこともある。

せりふ。演者が話す部分。状況などを説明するナレーションが入ることもある。

※四郎 主人公の男の子
かん子 四郎の妹

明るく美しい曲浮いてくる、十分聞かせて裏へ流す。

四郎 (反響のあるマイクで歌うように
——) かん子 かんこ、しみ雪
かんこ……。

かん子 (反響のあるマイク) かんこ、しみ雪
かんこ……。
キユッキユツと雪を踏みしめる靴の音

四郎 (反響のあるマイク) かんこ、しみ雪
かんこ……。(話しかけるように) かん子ちゃん、林の方
まで行ってみようか。雪かたいから
どこまでも歩けるよ。雪、キユツ
キユツ鳴って、おもしろいねえ。

『宮沢賢治名作童話 学校放送劇・舞台劇脚本集』(平野直 編) より『雪渡り』

小説と脚本の違いを確かめる

小説

「では皆さんは、そういうふうに着たり、乳の流れたとだといわれたりしていた、このぼんやりと白いものが本当は何かご承知ですか。」先生は、黒板につるした大きな黒い星座の図の、上から下へ白くけぶった銀河帯のようなところをさしながら、みんなに問いをかけました。

カムパネルラが手をあげました。それから四、五人、手をあげました。ジョバンニも手をあげようとして、急いでそのままやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだのですが、この頃は、ジョバンニはまるで毎日教室でも眠く、本を読む暇も読む本もないので、なんだかどうなこともよくわからないという気持ちです。

ところが先生は、早くもそれを見つけたのでした。

「ジョバンニさん。あなたはわかっているのですか。」

ジョバンニは勢いよく立ち上がりましたが、立つてみるともうはつきりとそれを答えることができなかったのでした。ザネリが前の席から振り返って、ジョバンニを見てくすつと笑いました。ジョバンニはもうどきまぎして真っ赤になってしまいました。先生がまた言いました。

「大きな望遠鏡で銀河をよく調べると、銀河はだいたいなんですよ。」

やっばり星だとジョバンニは思いましたが、今度もすぐに答えることができませんでした。

『銀河鉄道の夜』（宮沢賢治）

脚本

コツコツコツと教壇を歩く先生の靴音、やがてコトリと止まる。

先生

……ところで皆さんは、天空にかかる星座の上から下へ白くけぶっている帯のようなものを見たことがありませんか。私たちはそれを、天に流れている川だといったり、乳の流れたとだといったりしていますが、そういうふうに川だといわれたり、乳の流れだといわれているあのぼんやりした白いものが何か、ごぞんじですか。

生徒一

はい。

生徒二

はい。

先生

「はい」「はい」と一斉にあがる生徒たちの声々。

先生

ジョバンニ！

ジョバンニ

机をガタピシさせて立ち上がる音。

先生

はい。

ジョバンニ

ジョバンニ、あなたはわかっているでしょう。

先生

……。

先生

大きな望遠鏡で銀河をよく調べると、銀河はだいたい何でできているでしょう。

ジョバンニ

まだ、はつきりとわかりません。

せりふなどの違いに着目して、比べましょう。

『宮沢賢治名作童話 学校放送劇・舞台劇脚本集』（平野直 編）より『銀河鉄道の夜』

小説を脚本に書きかえる

八時頃、僕は誰にも気づかれないように谷本たにもとさんの家を出た。村の家へ帰って腹いっぱい食べてこようと思ったのだ。

ジャンパーを着て首へ母ちゃんが編んでくれた毛糸の襟巻きをし、長靴を履いた。森の中の暗い雪道を、歩いたり走ったりする。坂道を上るとき汗をかき、下るときに乾いた。

家へ着くと玄関の戸の内側につつかい棒がしてあって、開かなかつた。家の中は真つ暗だ。戸を小さくたくくと、トモコ姉さんが起きてきて戸を開けてくれた。

——どうしたの、こんな時間に。
トモコ姉さんがささやき声できいた。今何時、と僕はきいた。もうすぐ十二時になるということだった。

家の中へ入ろうとすると茶の間の戸が開き、母ちゃんが顔を出した。丹前たんぜんを着ている。

——どした。

母ちゃんの声はとがっていた。

——腹へった。

僕はしゃがみこみそうになって言った。

——何？ 腹へった？

母ちゃんがかん高い声で言った。それから低い声でトモコ姉さんに寝るよう
に言った。母ちゃんが僕をにらむ。

——玄関からは入るな、裏口へ回れ。

母ちゃんの声は怒おこっていた。僕は玄関を出て戸を閉めると、家の裏へ回って
台所の出入り口から入った。その上がりがまちのところに、母ちゃんが家の
中を掃くほうきを持って立っていた。

※丹前 全体に綿を厚く入れた防寒用の着物。袖が広く、衣服の上に重ねて着られる。

上がりがまち 家の上がり口の縁に渡した横木。

『風少年』(小檜山博)

振り返り

上は、作者が中学生の頃のことを描いた自伝的小説の一部です。小説の中の「僕」は、村にある自宅から学校が遠く、冬の間は親元を離れて親戚の谷本さんの家から通学しています。しかし、谷本さんの家族に食事で気をつかうため空腹が続く、ある日の夜、四時間近くかけて自宅に食事をしに帰りました。

①この場面をテレビドラマの脚本に書きかえましょう。

- ・「僕」や「母ちゃん」はどのような人物でしょうか。俳優を選ぶとしたら誰にしますか。選んだ理由も説明しましょう。
- ・せりふとト書きに分けて書きましょう。俳優の演技や映像の撮り方、どのような音楽をつけるかなど、脚本で表現しましょう。

②書いた脚本を読み合い、書きかえたときに工夫したことを話し合しましょう。

- SNSや、小説、脚本など多様な文章を読み、含まれる情報の特徴を捉えているか。
- 文章の目的を考えて、SNSの例にふれたり、小説を脚本に書きかえたりしているか。
- 言葉が、表現する意図や、受け取る側の印象にはたらきかける効果について考えよう。

広がる本の世界 3

学びを深める読書案内



バリアフリーをつくる
みつ の ゆうじ
光野有次

工業デザイナーの筆者がバリアフリーの現状と展望を語る。



DIVE!! (ダイブ!!) (上)
もり え と
森絵都

「飛び込み」に魅了された3人の少年たちの熱い闘い。



夢を跳ぶ
さと ま
佐藤真海

19歳の時に骨肉腫で右足を失った筆者がアスリートを目ざす。



手足のないチアリーダー
さ の あ む
佐野有美

先天性四肢欠損症の「あみちゃん」の笑顔と人気の秘密が満載。



おもしろい! スポーツの物理
もちつきおさむ
望月修

マラソンは小柄な人が有利? スポーツにおける物理現象を解説。



目の見えない人は世界をどう見ているのか
いとう あ さ
伊藤亜紗

「見える」とはどういうことか。「見る」ことを考え直す。



動員の革命
つ だ い ち
津田大介

ソーシャルメディアの登場により世の中はどう変わったのか。



日本語は泣いている
と や ま し げ ひ こ
外山滋比古

「電話」「手紙」「ことば」など、日本語にまつわるエッセイ集。



ギンク陸上部
ふなさきいずみ
舟崎泉美 著
山下白 原案

走ることが好きな颯斗だが、右足をがんと診断され切断することに。



ドッグ・シェルター
いまにしのりこ
今西乃子

捨てられた犬とのふれ合いで少年たちが自信を取り戻す。